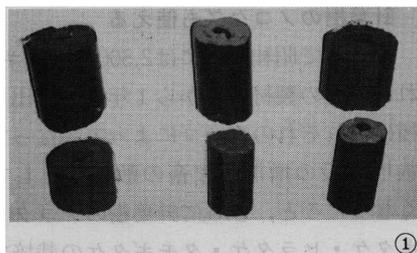


ノコクズはこのように使われている

オガライト



オガライトとオガタン

北海道で、オガライトが本格的に生産されはじめたのは昭和32年頃からであり、その頃は「オガライト」ではなく「オガタン」と呼ばれていました。オガライト（写真）という名前は、本道では昭和40年頃から使われ始め、その理由は、オガタンは炭化した製品、オガライトは炭化しない製品、というように区分するためと思われる。

オガライトの生産量と価格

オガライトの工場数と生産量は、ともに昭和41年をピークにしてその後だいに減り、昭和49年頃より生産量はほぼ1万4千トン程度で横ばい状態となっています。

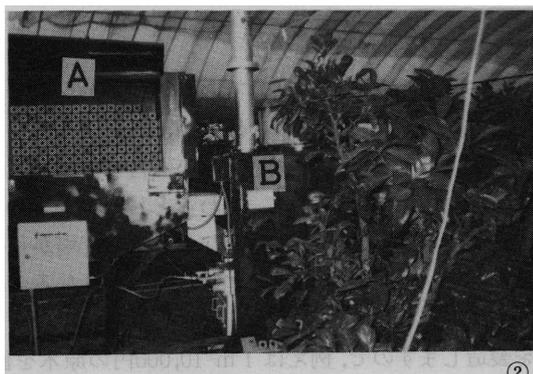
オガライト 1kgの価格は、問屋へは平均25円、小売店へは30円程度で販売されています。原料であるノコクズは、みかけ 1m³当たり 500~1,000 円程度ですが、キノコ培地や家畜敷わらとしての用途と競合しているため、自家の廃ノコクズを使っている工場も多くあります。

オガライト工場を始めるために

オガライト工場をはじめるための資金額を計算してみましょう。

製造設備	1日 300袋、約 4.5トン生産する規模で 900~1,200 万円
建 屋	3.3m ² 当たり 15~16 万円として 通常の設定で約 500万円

といった積算から、土地別で合計 1,400~1,700 万円程度の資金が必要と思われる。



注目されるオガライト

これまでのオガライトの用途は、本道では補助暖房熱源が主でありました。しかし、本州では重油価格の上昇により重油にかわってオガライトを温室ハウス用熱源に用い始めており、そのための専用燃焼機も開発されており。この燃焼機の基本構造は、オガライトの貯槽定量供給部と燃焼部からなり、貯槽供給部はオガライトを積み上げ、これを後方から板状のもので前方に押し出し、一本ずつ供給する機構になっています。燃焼部は、この一本ずつを圧縮により粉碎してオガライト粉にし、これを燃焼部に送ってロストル上で燃焼させる機構になっています。この燃焼機の価格は、10アール程度のハウス加温用で約170万円です。写真は、このようなオガライト燃焼機の一例で、Aの部分がオガライトの貯槽部及び定量供給部で、Bが燃焼部です。

（林産試験場 遠藤 展）